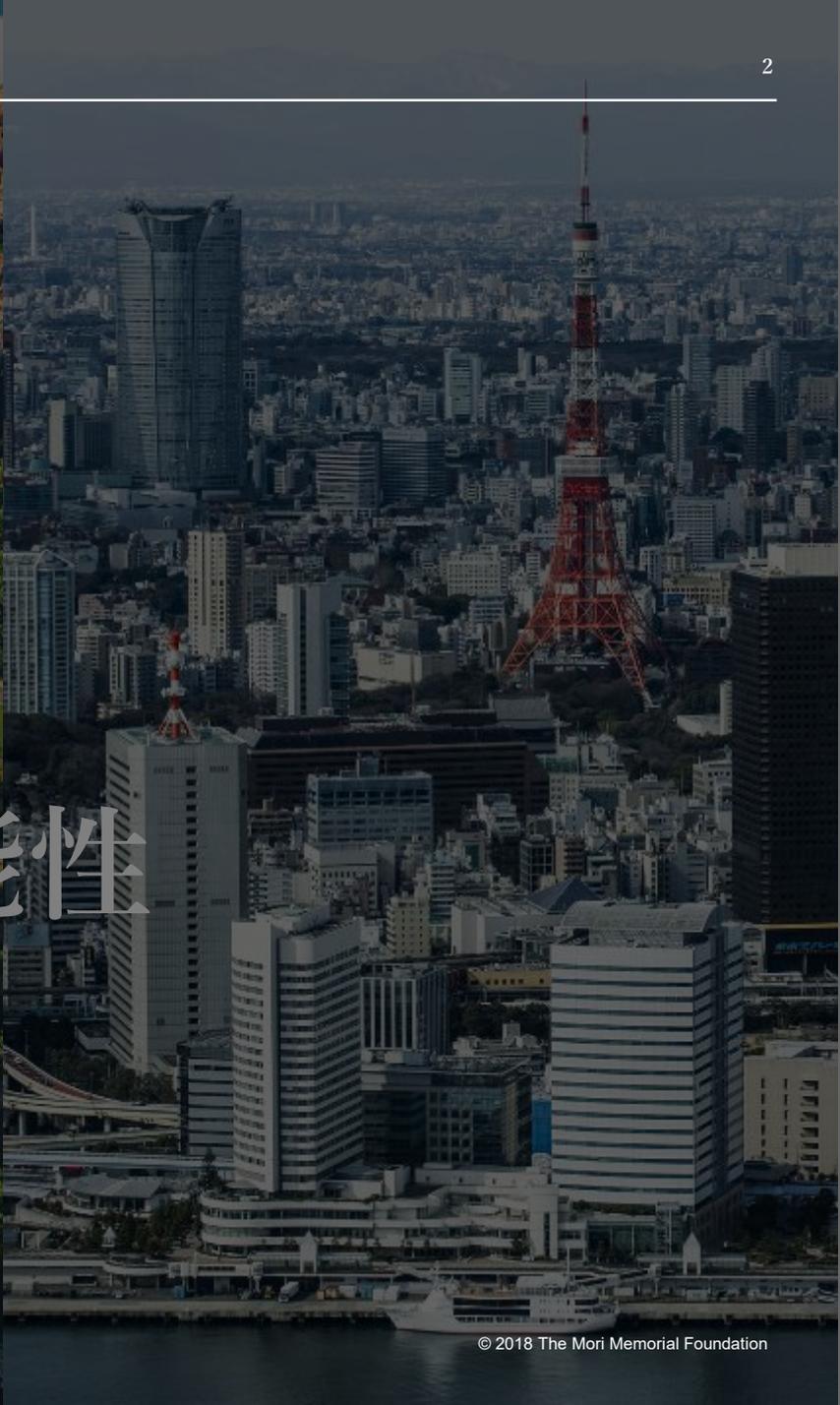


Global  
Power City  
Index  
2018

Global Power City Index

# 世界の都市総合力ランキング 2018



# GPCIとは 今年の結果 東京の課題と可能性

What is the GPCI? GPCIとは

## 目的

世界的な都市間競争において、

より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける都市の“磁力”は、

都市の一側面の力ではなく、総合的な力から生み出されるものであると考え、

世界の主要都市の「**総合力**」を評価し、順位付けした。

What is the GPCI? GPCIとは

## 策定体制

### 実行委員会



**委員長／竹中平蔵**

東洋大学教授  
慶應義塾大学 名誉教授  
森記念財団都市戦略研究所 所長



**主査／市川宏雄**

明治大学 名誉教授  
森記念財団 理事



**最高顧問／  
ピーター・ホール卿**

(1932-2014)  
ユニヴァーシティ・カレッジ・  
ロンドン 教授



**サスキア・サッセン**

コロンビア大学 教授



**アレン・J・スコット**

カリフォルニア大学  
ロサンゼルス校 特別研究教授



**ピーター・ネイカンプ**

ヒエロニムス・  
データサイエンス・アカデミー  
研究コーディネーター  
ヤシ大学 教授



**リチャード・ベンダー**

カリフォルニア大学 バークレー校  
名誉教授・学部長



**マイケル・バティ**

ユニヴァーシティ・カレッジ・  
ロンドン 教授

### ピア・レビューアー



**アンドレス・ロドリゲス＝ポセ**  
ロンドン・スクール・オブ・  
エコノミクス 教授



**王才強〈ヘン・チュ・キャン〉**  
シンガポール国立大学 教授

### 作業委員会

主査：市川宏雄



メンバー：一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所  
株式会社三菱総合研究所

What is the GPCI? GPCIとは

## 活用事例

国内

代表的な都市指標の一つとして高い評価を得ており、さまざまな場所で都市政策やビジネス戦略の参考資料として用いられている。

### 「未来投資戦略 2018」

(2018年6月15日閣議決定)

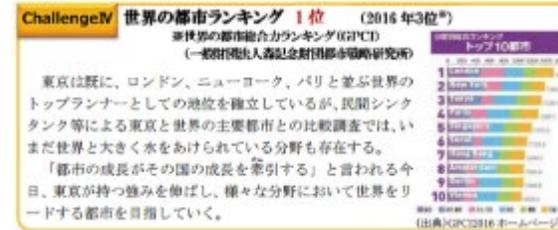


《KPI》2020年までに、都市総合カランキングにおいて、東京が3位以内に入る。

⇒2017年：3位（2012年：4位）

### 「都民ファーストで つくる『新しい東京』」

(2016年12月策定)



### 「都市づくりの ランドデザイン」

(2017年9月1日公表)



#### 世界の都市ランキング ▶ 1位が定位置

(現状) 世界の都市総合カランキング 3位(2016年) / 一般財団法人森記念財団都市戦略研究所

東京は、交通・アクセスや環境など、都市づくりに関しては世界と水をあけられている分野が存在します。「都市の成長がその国の成長を牽引する」と言われる今日、東京が持つ強みを伸ばし、様々な分野において世界をリードする都市の実現を目指していきます。

What is the GPCI? GPCIとは

# 活用事例

海外

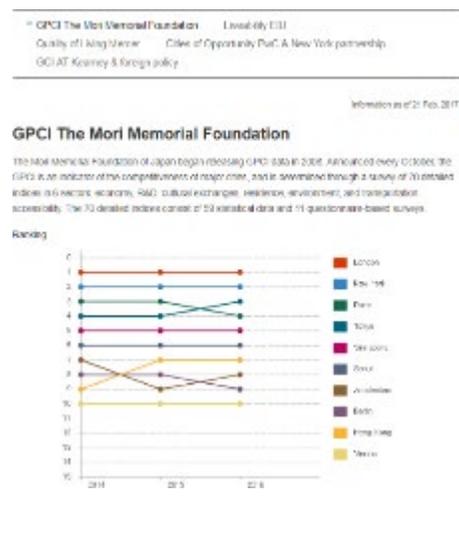
代表的な都市指標の一つとして高い評価を得ており、さまざまな場所で都市政策やビジネス戦略の参考資料として用いられている。

## シティ・オブ・ロンドン



ロンドンの魅力の  
根拠データとして掲載

## ソウル特別市



都市競争力の評価指数  
として掲載

## 世界経済フォーラム



特集記事の掲載

What is the GPCI? GPCIとは

## 対象都市



ヨーロッパ	アフリカ	中東	アジア	オセアニア	北米	中南米	計44都市
15都市	2都市	2都市	13都市	1都市	8都市	3都市	

What is the GPCI? GPCIとは

「総合力」 = 6分野



What is the GPCI? GPCIとは

## 6分野 70指標

6分野それぞれにおいて、  
主要な要素を表す指標グループ  
を設定、さらにそれらを構成す  
る指標を70選定した。



経済

市場の規模	1	GDP
	2	1人あたりGDP
市場の魅力	3	GDP成長率
	4	経済自由度
	5	証券取引所の株式時価総額
経済集積	6	世界トップ500企業
	7	従業者数
人的集積	8	ビジネスサポート人材の多さ
	9	賃金水準の高さ
ビジネス環境	10	優秀な人材確保の容易性
	11	ワークプレイス充実度
	12	法人税率の低さ
ビジネスの容易性	13	政治・経済・商機のリスク



研究・開発

研究集積	14	研究者数
	15	世界トップ大学
研究環境	16	数学・科学に関する学力
	17	研究者の受入態勢
	18	研究開発費
イノベーション	19	特許登録件数
	20	主要科学技術賞受賞者数
	21	スタートアップ環境
	22	国際コンベンション件数



文化・交流

交流・文化発信力	22	国際コンベンション件数
	23	世界的な文化イベント件数
	24	コンテンツ輸出額
	25	アーティストの創作環境
文化資源	26	ユネスコ世界遺産への近接性
	27	歴史・伝統への接触機会
	28	劇場・コンサートホール数
集客施設	29	美術館・博物館数
	30	スタジアム数
	31	ハイクラスホテル客室数
	32	ホテル総数
受入環境	33	買物の魅力
	34	食事の魅力
	35	外国人居住者数
	36	外国人訪問者数
外国人受入実績	37	留学生数



居住

就業環境	38	完全失業率の低さ
	39	総労働時間の短さ
	40	従業員の生活満足度
居住コスト	41	住宅賃料水準の低さ
	42	物価水準の低さ
安全・安心	43	殺人件数の少なさ
	44	自然災害の経済的リスクの少なさ
生活良好性	45	平均寿命
	46	社会の自由度・平等さ
	47	メンタルヘルス水準
	48	医師数
	49	ICT環境の充実度
生活利便性	50	小売店舗の充実度
	51	飲食店の充実度
	52	環境への取り組み



環境

エコロジー	52	環境への取り組み
	53	再生可能エネルギー比率
	54	リサイクル率
大気質	55	CO2排出量の少なさ
	56	SPM濃度の低さ
	57	SO2・NO2濃度の低さ
自然環境	58	水質の良好性
	59	都心部の緑被状況
	60	気温の快適性



交通・  
アクセス

国際交通ネットワーク	61	国際線直行便就航都市数
	62	国際貨物流通規模
交通インフラ キャパシティ	63	国内・国際線旅客数
	64	滑走路本数
都市内交通サービス	65	鉄道駅密度
	66	公共交通の充実・正確さ
交通利便性	67	国際空港へのアクセス時間の短さ
	68	通勤・通学の利便性
	69	渋滞の少なさ
	70	タクシー運賃の安さ



概要版2~3ページをご覧ください。

What is the GPCI? GPCIとは

## データの更新

都市に求められる総合力は  
社会情勢によって変化するため、  
毎年データの見直しを行っている。

- ・ 現在の世界情勢やライフスタイルを反映するデータの追加
- ・ 現在の世界情勢に沿わなくなったデータの更新
- ・ 新たに入手可能となったデータの追加

 概要版2~3ページをご覧ください。



経済

市場の規模	1	GDP
	2	1人あたりGDP
市場の魅力	3	GDP成長率
	4	経済自由度
経済集積	5	証券取引所の株式時価総額
	6	世界トップ500企業
人的集積	7	従業者数
	8	ビジネスサポート人材の多さ
ビジネス環境	9	賃金水準の高さ
	10	優秀な人材確保の容易性
	11	ワークプレイス充実度
ビジネスの容易性	12	法人税率の低さ
	13	政治・経済・商機のリスク



研究・開発

研究集積	14	研究者数
	15	世界トップ大学
研究環境	16	数学・科学に関する学力
	17	研究者の受入態勢
	18	研究開発費
イノベーション	19	特許登録件数
	20	主要科学技術賞受賞者数
	21	スタートアップ環境



文化・交流

交流・文化発信力	22	国際コンベンション件数
	23	世界的な文化イベント件数
	24	コンテンツ輸出額
文化資源	25	アーティストの創作環境
	26	ユネスコ世界遺産への近接性
	27	歴史・伝統への接触機会
集客施設	28	劇場・コンサートホール数
	29	美術館・博物館数
	30	スタジアム数
受入環境	31	ハイクラスホテル客室数
	32	ホテル総数
	33	買物の魅力
	34	食事の魅力
外国人受入実績	35	外国人居住者数
	36	外国人訪問者数
	37	留学生数



居住

就業環境	38	完全失業率の低さ
	39	総労働時間の短さ
	40	従業員の生活満足度
居住コスト	41	住宅賃料水準の低さ
	42	物価水準の低さ
安全・安心	43	殺人件数の少なさ
	44	自然災害の経済的リスクの少なさ
生活良好性	45	平均寿命
	46	社会の自由度・平等さ
	47	メンタルヘルス水準
	48	医師数
生活利便性	49	ICT環境の充実度
	50	小売店舗の充実度
	51	飲食店の充実度



環境

エコロジー	52	環境への取り組み
	53	再生可能エネルギー比率
	54	リサイクル率
大気質	55	CO2排出量の少なさ
	56	SPM濃度の低さ
	57	SO2・NO2濃度の低さ
自然環境	58	水質の良好性
	59	都心部の緑被状況
	60	気温の快適性



交通・アクセス

国際交通ネットワーク	61	国際線直行便就航都市数
	62	国際貨物物流規模
交通インフラキャパシティ	63	国内・国際線旅客数
	64	滑走路本数
都市内交通サービス	65	鉄道駅密度
	66	公共交通の充実・正確さ
	67	国際空港へのアクセス時間の短さ
交通利便性	68	通勤・通学の利便性
	69	渋滞の少なさ
	70	タクシー運賃の安さ

What is the GPCI? GPCIとは

## データの更新

都市に求められる総合力は  
社会情勢によって変化するため、  
毎年データの見直しを行っている。

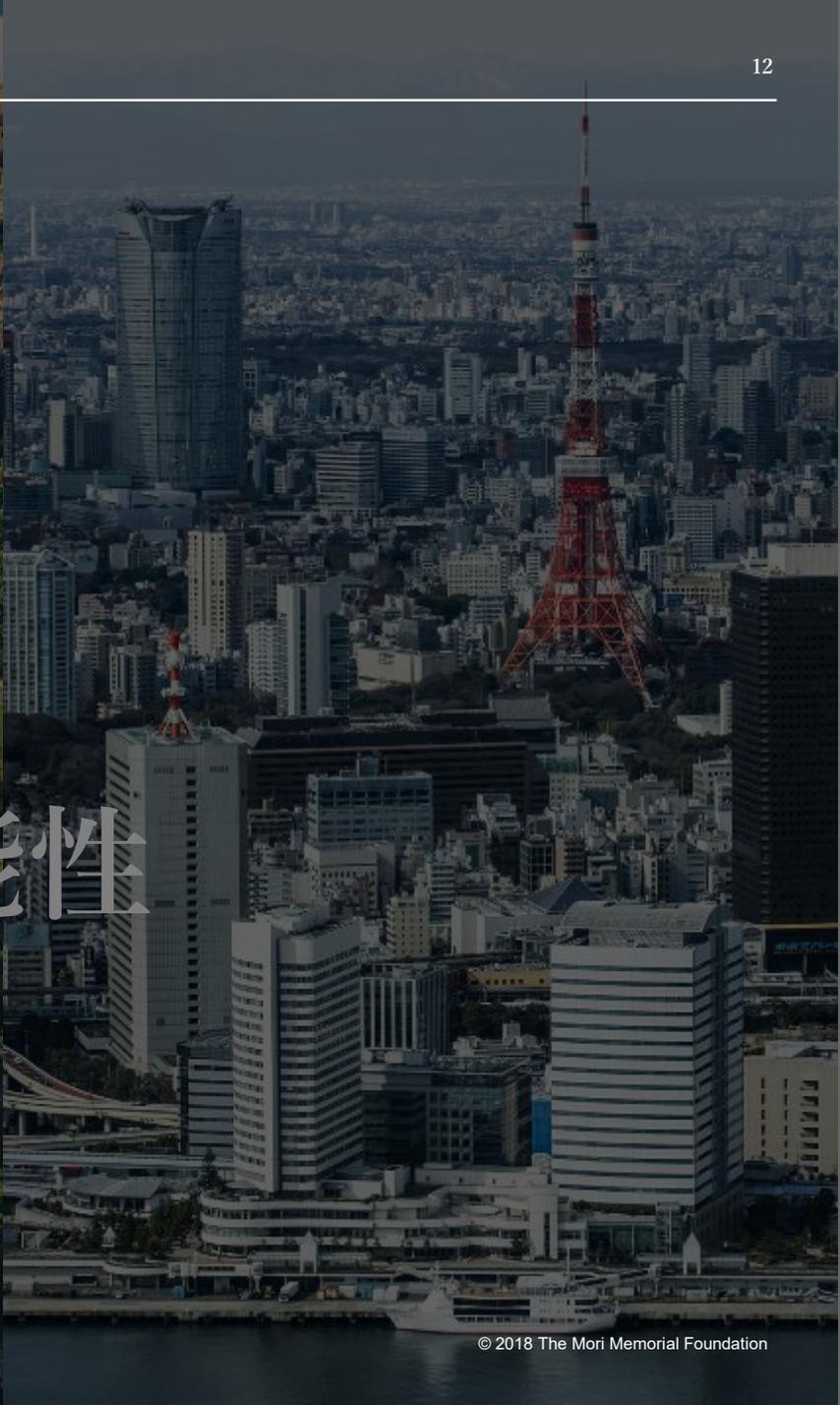
- ・現在の世界情勢やライフスタイルを反映するデータの追加
- ・現在の世界情勢に沿わなくなったデータの更新
- ・新たに入手可能となったデータの追加

ワークプレイス充実度  
従来の働き方「ひとりあたりオフィス面積」  
+  
新たな働き方「コワーキングスペース数」  
ソース：coworker.comでコワーキングスペース数をカウント

スタートアップ環境  
新たにデータ入手  
スタートアップ企業数や投資額、  
ベンチャーキャピタル数などを総合的に評価  
ソース：Nestpick "Startup Cities Index"

環境への取り組み  
昨年までは「ISO14001取得企業数」  
取得企業数の減少や国際的な重要性の低下  
環境問題に対する国際的な協力体制を評価  
ソース：国連気候変動データポータルNAZCA

渋滞の少なさ  
新たにデータ入手  
交通渋滞による所要時間の伸び率  
ソース：大手カーナビ会社TomTom



GPCIとは  
今年の結果  
東京の課題と可能性

※[ ]内の数値はGPCI-2017の順位およびスコア

## トップ5都市

昨年から変化なし。

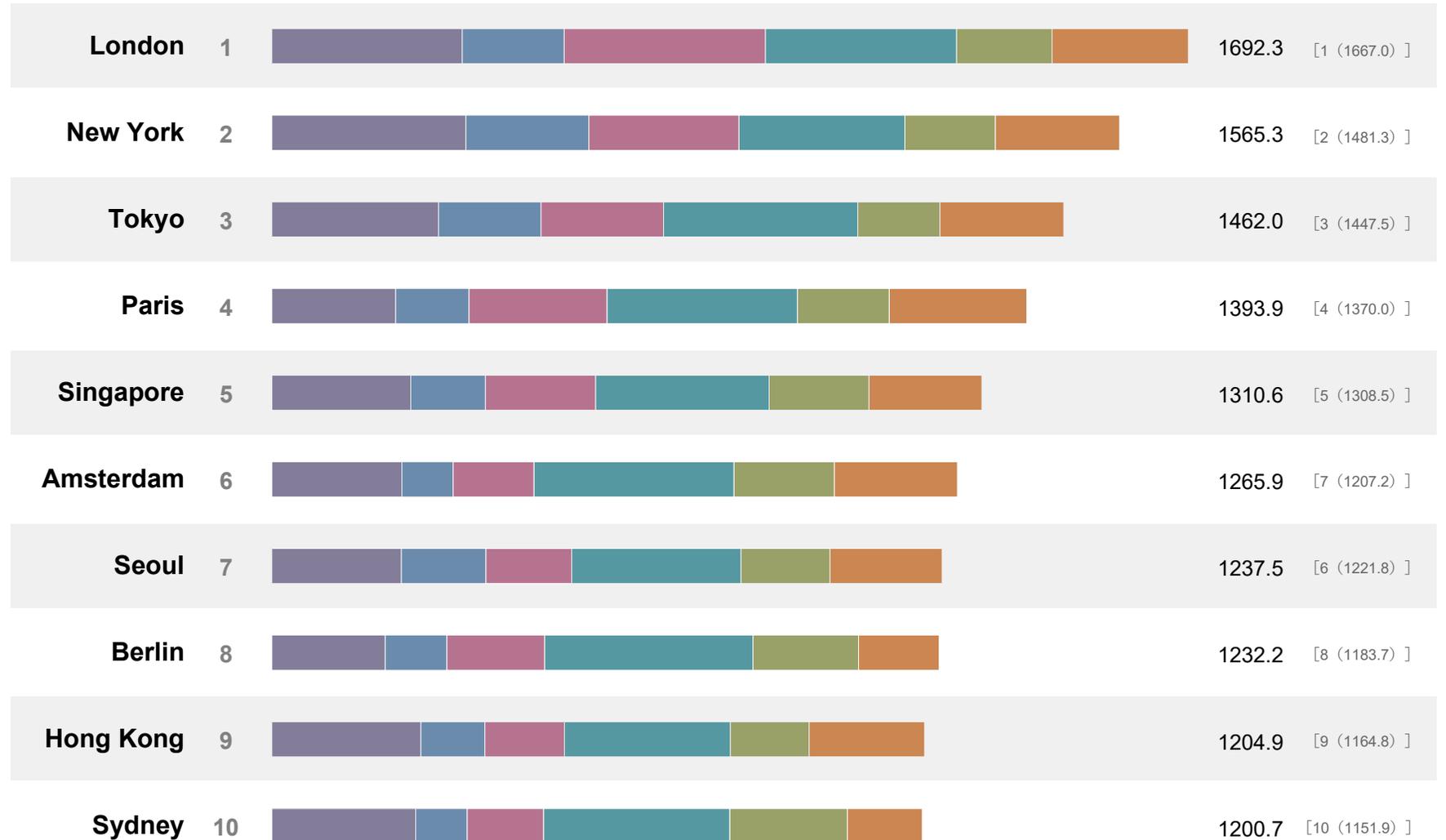
1位 ロンドン

2位 ニューヨーク

3位 東京

4位 パリ

5位 シンガポール



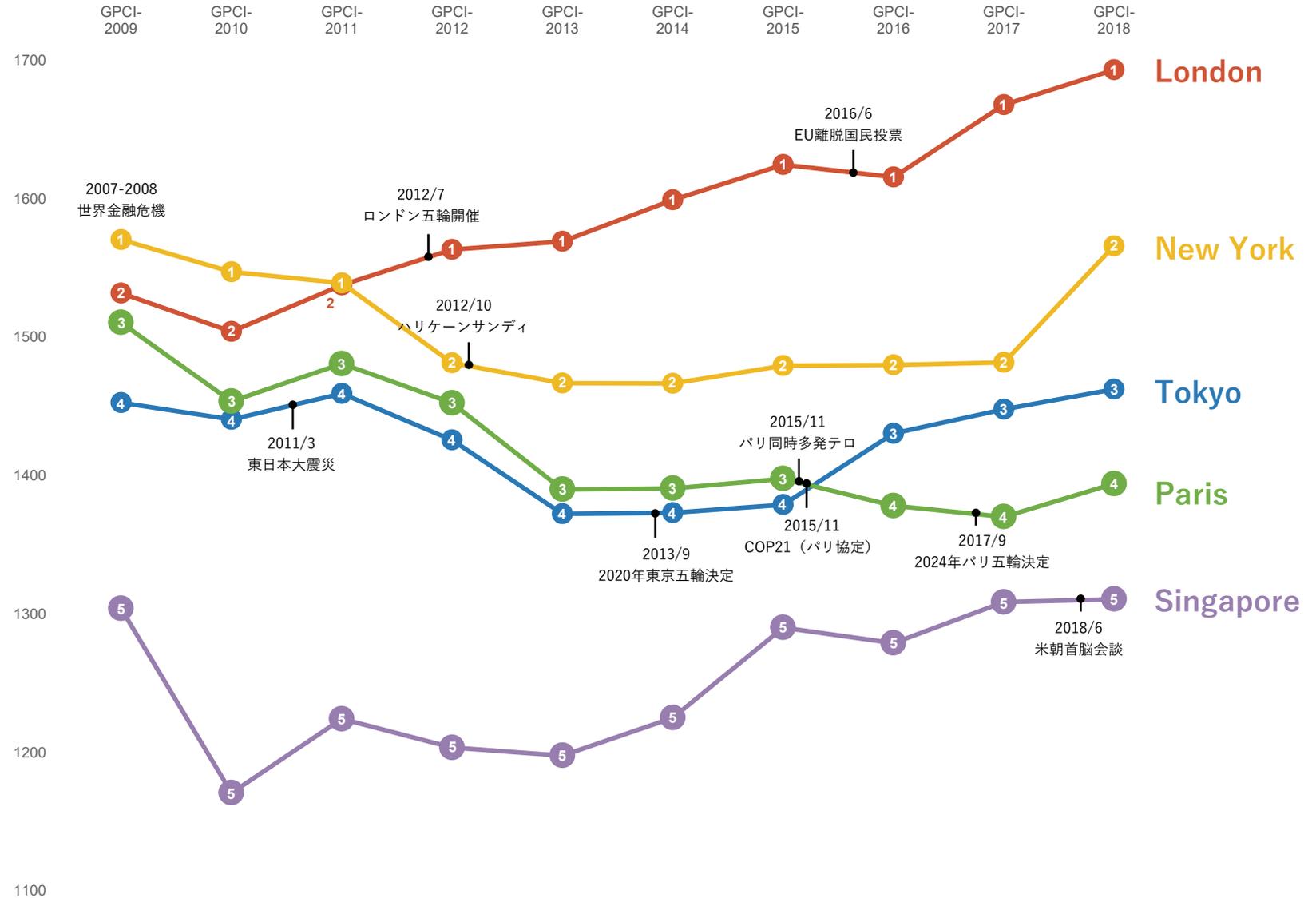
概要版7ページをご覧ください。

## トップ都市の スコアの変動を見ると

- **ロンドン**はブレグジット投票後も失速することなくトップを独走中。
- **ニューヨーク**は今年大幅に伸び、ロンドンに追随。世界金融危機からの脱却か。
- **東京**は伸びているが、**パリ**も同時多発テロなどによる下落から回復基調。今後、それぞれの五輪開催に向けて都市力をいかに伸ばせるかに3位の座がかかる。



概要版9ページをご覧ください。



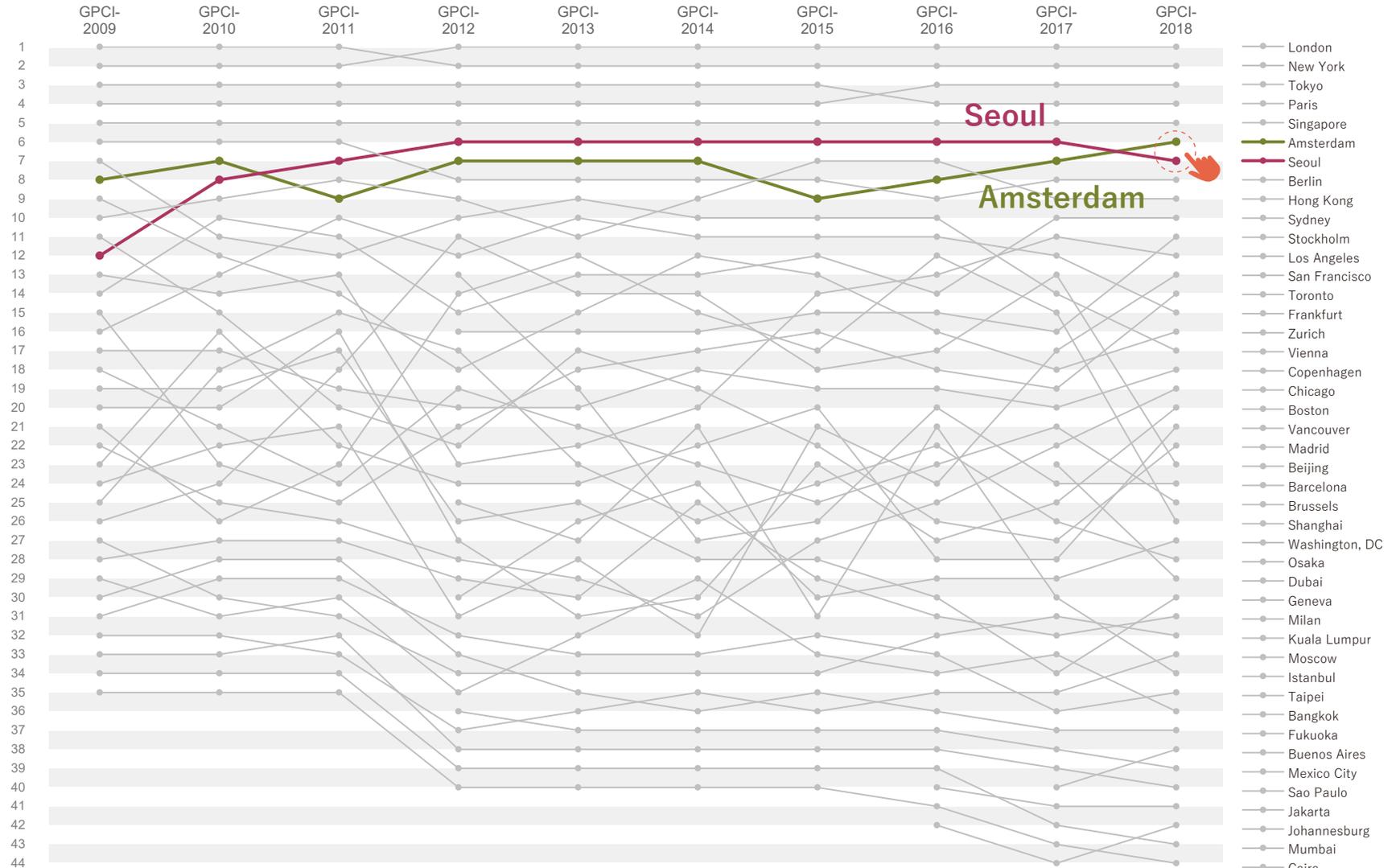
## 6位と7位が逆転

アムステルダムは2015年から毎年順位を上げてきていたが、今年ソウルを抜いて6位にランクアップ。

### 要因

- ・ソウルもスコアは伸びているが、アムステルダムがより大きく伸びて逆転。
- ・アムスは居住分野で2位を維持、大きな強みとなっている。
- ・「GDP成長率」など経済分野も好調
- ・Brexitに備えて、ロンドンから企業や人材が流入している可能性

 概要版8ページをご覧ください。



GPCI-2018 Results GPCI-2018 結果

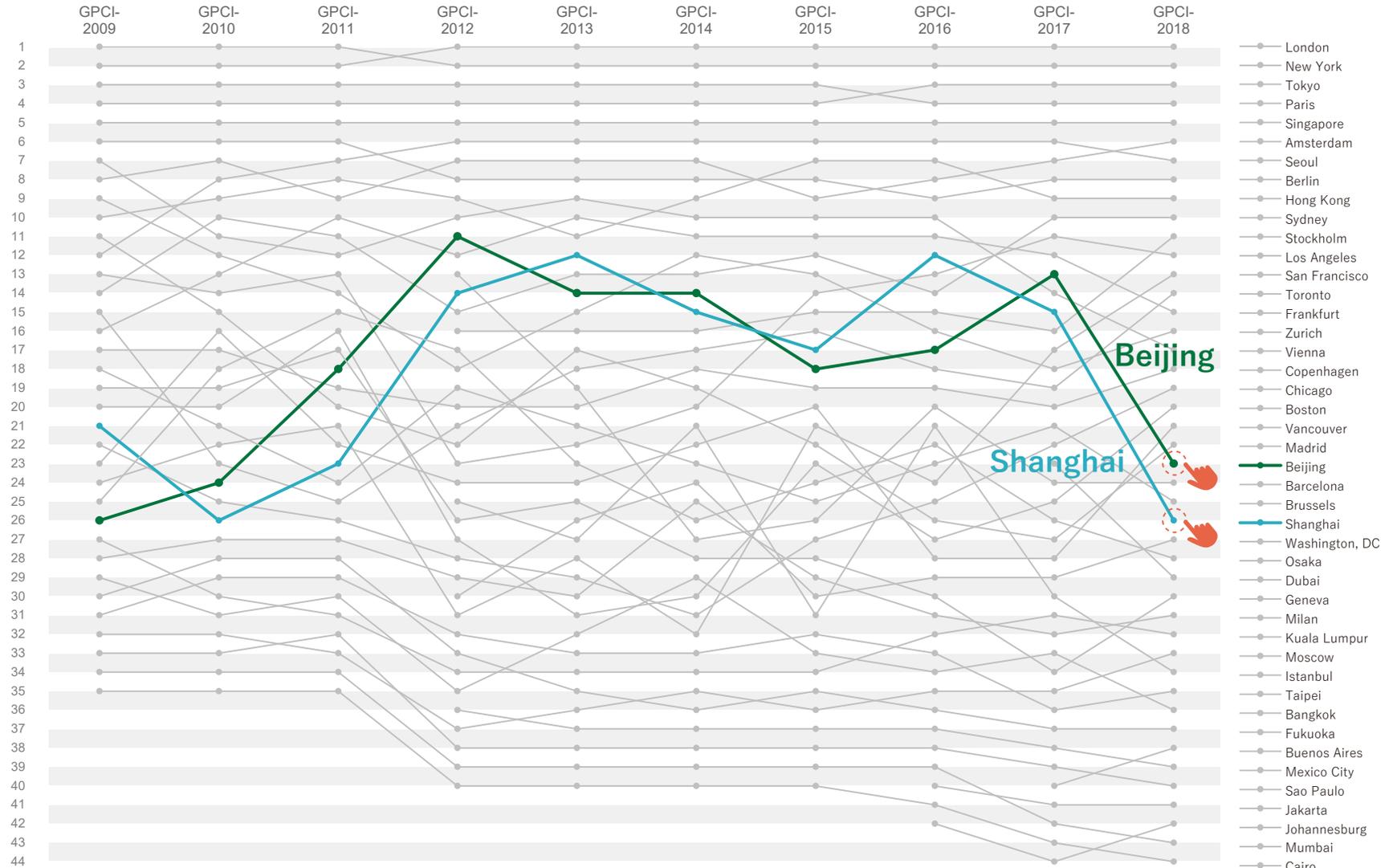
# 北京と上海が下落

北京は13位から23位に、  
上海は15位から26位に下落。

※北京と上海は多くの都市が近接しているグループにいるので、スコアが少し下がるだけで順位が大きく下がる。

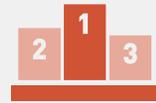
## 要因

- ・ 経済「ビジネスサポート人材の多さ」
- ・ 経済「優秀な人材確保の容易性」
- ・ 居住「従業員の生活満足度」
- ・ 環境「環境への取り組み」
- ・ 環境「水質の良好性」
- ・ 交通「渋滞の少なさ」などが低評価



## 1位 ロンドンのポイント

7年連続で総合力1位を維持。



オリンピック後の勢いを落とすことなく、さらにスコアを伸ばし、トップを独走している。



特に強みである文化交流分野ではハイクラスホテル客室数などを増やし、16指標中13の指標でトップ5入り。



弱みであった住宅賃料水準や物価水準において順位を上げ、居住分野で17→11位へ。  
(ポンド安も影響)



概要版4～5ページをご覧ください。

GPCI-2018 Results GPCI-2018 結果

## 2位 ニューヨークのポイント

ランキング開始以来のスコアの伸びを見せた。



法人税率引き下げの影響もあり、昨年トップとなった経済分野で、今年もトップを維持。



「スタートアップ環境」や「ワークプレイス充実度」で高評価。新たな企業形態や働き方への対応力を見せた。



25位の環境分野、28位の居住分野が大きな弱みとなっている。特に**住宅賃料水準**や**物価水準**の高さが課題。



概要版4～5ページをご覧ください。

## 3位 東京のポイント

トップ2都市ほどの伸びはなかったが、3位の座を維持。



総労働時間の短縮などが評価され、居住分野でトップ10入り。



「GDP成長率」の回復や、「ワークプレイス充実度」の高評価により、経済分野で3位に上昇。



環境分野は「環境への取り組み」での評価が低く、12位から29位へランクダウン。

\*国連気候変動データポータルNAZCA



概要版4～5ページをご覧ください。



GPCIとは  
今年の結果  
東京の課題と可能性



経済



研究・開発



文化・交流



居住



環境



交通・アクセス

# 分野別ランキング

## 東京

- 経済 4→3位
- 研究・開発 3→2位
- 文化・交流 4位を維持
- 居住 14→9位
- 環境 12→29位
- 交通・アクセス 6→5位

1	New York	358.2
2	London	351.2
3	Tokyo <span style="color: red;">↑+1</span>	307.6
4	Beijing	290.0
5	Hong Kong	274.9
6	Zurich	273.5
7	San Francisco	269.4
8	Sydney	265.2
9	Singapore	256.2
10	Toronto	250.3
11	Stockholm	247.9
12	Los Angeles	241.3
13	Amsterdam	240.1
14	Vancouver	239.9
15	Seoul	238.9
16	Shanghai	237.0
17	Dubai	234.8
18	Geneva	234.5
19	Washington, DC	232.1
20	Paris	228.5
21	Frankfurt	225.0
22	Copenhagen	222.1
23	Boston	216.7
24	Kuala Lumpur	216.3
25	Chicago	211.3
26	Berlin	209.3
27	Taipei	189.3
28	Osaka	186.5
29	Brussels	183.2
30	Vienna	183.2
31	Madrid	178.8
32	Istanbul	171.0
33	Barcelona	171.0
34	Fukuoka	163.3
35	Bangkok	163.1
36	Milan	153.7
37	Moscow	144.8
38	Jakarta	144.6
39	Mexico City	135.9
40	Johannesburg	131.3
41	Sao Paulo	109.8
42	Buenos Aires	107.0
43	Mumbai	95.6
44	Cairo	70.3

New York	227.1
Tokyo <span style="color: red;">↑+1</span>	189.1
London	188.3
Los Angeles	169.6
Boston	163.7
Seoul	155.9
Chicago	140.0
Singapore	137.8
Paris	135.1
San Francisco	129.2
Hong Kong	118.4
Berlin	113.8
Washington D.C.	112.1
Beijing	111.2
Osaka	105.2
Shanghai	95.9
Sydney	95.4
Amsterdam	94.2
Stockholm	89.9
Toronto	88.7
Brussels	87.8
Moscow	79.0
Geneva	73.5
Vancouver	72.9
Zurich	72.3
Copenhagen	71.5
Taipei	71.2
Frankfurt	59.3
Fukuoka	54.6
Barcelona	53.3
Vienna	53.3
Milan	51.7
Madrid	50.7
Istanbul	39.6
Dubai	33.2
Sao Paulo	27.7
Buenos Aires	26.7
Mexico City	24.6
Bangkok	24.5
Mumbai	22.1
Kuala Lumpur	20.8
Johannesburg	15.7
Jakarta	4.5
Cairo	3.8

London	371.8
New York	276.8
Paris	255.2
Tokyo <span style="color: red;">←±0</span>	226.3
Singapore	203.7
Berlin	180.5
Beijing	171.4
Istanbul	165.9
Vienna	160.8
Seoul	158.5
Bangkok	153.0
Amsterdam	149.7
Dubai	148.3
Barcelona	148.2
Hong Kong	146.5
Los Angeles	145.9
Sydney	145.1
Shanghai	141.8
Sydney	141.0
Moscow	137.1
Madrid	136.1
Osaka	127.5
Mexico City	127.3
Milan	120.3
Buenos Aires	117.4
Chicago	115.9
San Francisco	110.3
Washington, DC	107.2
Kuala Lumpur	100.8
Toronto	100.3
Boston	97.5
Sao Paulo	97.0
Copenhagen	95.9
Vancouver	95.2
Stockholm	88.2
Frankfurt	78.8
Cairo	70.1
Johannesburg	64.6
Mumbai	61.1
Zurich	59.7
Taipei	56.9
Jakarta	51.7
Geneva	48.3
Fukuoka	46.6

Berlin	384.5
Amsterdam	369.2
Toronto	369.2
Barcelona	368.9
Madrid	368.0
Frankfurt	366.1
Vancouver	365.7
Vienna	363.6
Tokyo <span style="color: red;">↑+5</span>	358.5
Stockholm	357.0
London	352.8
Amsterdam	351.3
Zurich	350.9
Copenhagen	349.6
Sydney	344.0
Fukuoka	342.1
Osaka	341.0
Kuala Lumpur	336.0
Milan	333.9
Geneva	328.5
Brussels	322.7
Singapore	320.2
Dubai	316.7
Buenos Aires	315.3
Seoul	312.9
Bangkok	311.2
Hong Kong	306.5
New York	306.4
Los Angeles	304.9
Shanghai	302.9
Moscow	302.2
San Francisco	299.5
Sao Paulo	295.9
Beijing	294.2
Istanbul	293.1
Boston	292.4
Mexico City	291.1
Taipei	288.6
Jakarta	283.1
Cairo	279.9
Mumbai	266.7
Chicago	264.9
Washington, DC	259.0
Johannesburg	201.4

Stockholm	242.5
Zurich	236.9
Copenhagen	223.5
Sydney	216.7
San Francisco	213.6
Vienna	205.5
Geneva	198.6
Vancouver	196.1
Berlin	195.0
Washington, DC	193.1
Frankfurt	191.9
Amsterdam	185.1
Singapore	184.2
Taipei	182.5
Madrid	182.3
Toronto	178.6
Boston	177.7
Chicago	177.3
London	176.3
Brussels	175.6
Paris	169.6
Los Angeles	168.4
Sao Paulo	168.1
Fukuoka	168.0
New York	167.4
Barcelona	164.8
Seoul	163.9
Milan	162.6
Tokyo <span style="color: red;">↓-17</span>	152.0
Buenos Aires	149.8
Johannesburg	148.5
Hong Kong	145.4
Kuala Lumpur	141.6
Mexico City	138.3
Istanbul	128.6
Bangkok	125.6
Jakarta	123.5
Dubai	117.9
Moscow	107.3
Istanbul	96.9
Mumbai	96.3
Cairo	77.9
Shanghai	65.0
Beijing	58.4

Paris	254.1
London	251.8
New York	229.4
Shanghai	229.2
Tokyo <span style="color: red;">↑+1</span>	228.4
Amsterdam	227.5
Frankfurt	219.3
Hong Kong	213.2
Singapore	208.4
Seoul	207.4
Chicago	192.0
Dubai	189.0
Istanbul	185.1
Moscow	183.5
Barcelona	177.3
Madrid	173.0
Kuala Lumpur	169.3
Osaka	166.7
Milan	165.1
Brussels	163.6
Beijing	163.3
Copenhagen	162.9
Taipei	162.5
Washington, DC	159.7
Vienna	159.4
Toronto	157.9
Stockholm	153.8
Boston	152.1
Berlin	149.1
Los Angeles	146.7
Zurich	139.5
Sydney	138.4
Bangkok	138.0
Fukuoka	136.3
San Francisco	134.7
Vancouver	123.5
Geneva	115.9
Buenos Aires	113.8
Sao Paulo	109.9
Mexico City	107.7
Johannesburg	106.9
Cairo	102.8
Jakarta	94.6
Mumbai	71.8

概要版11ページをご覧ください。

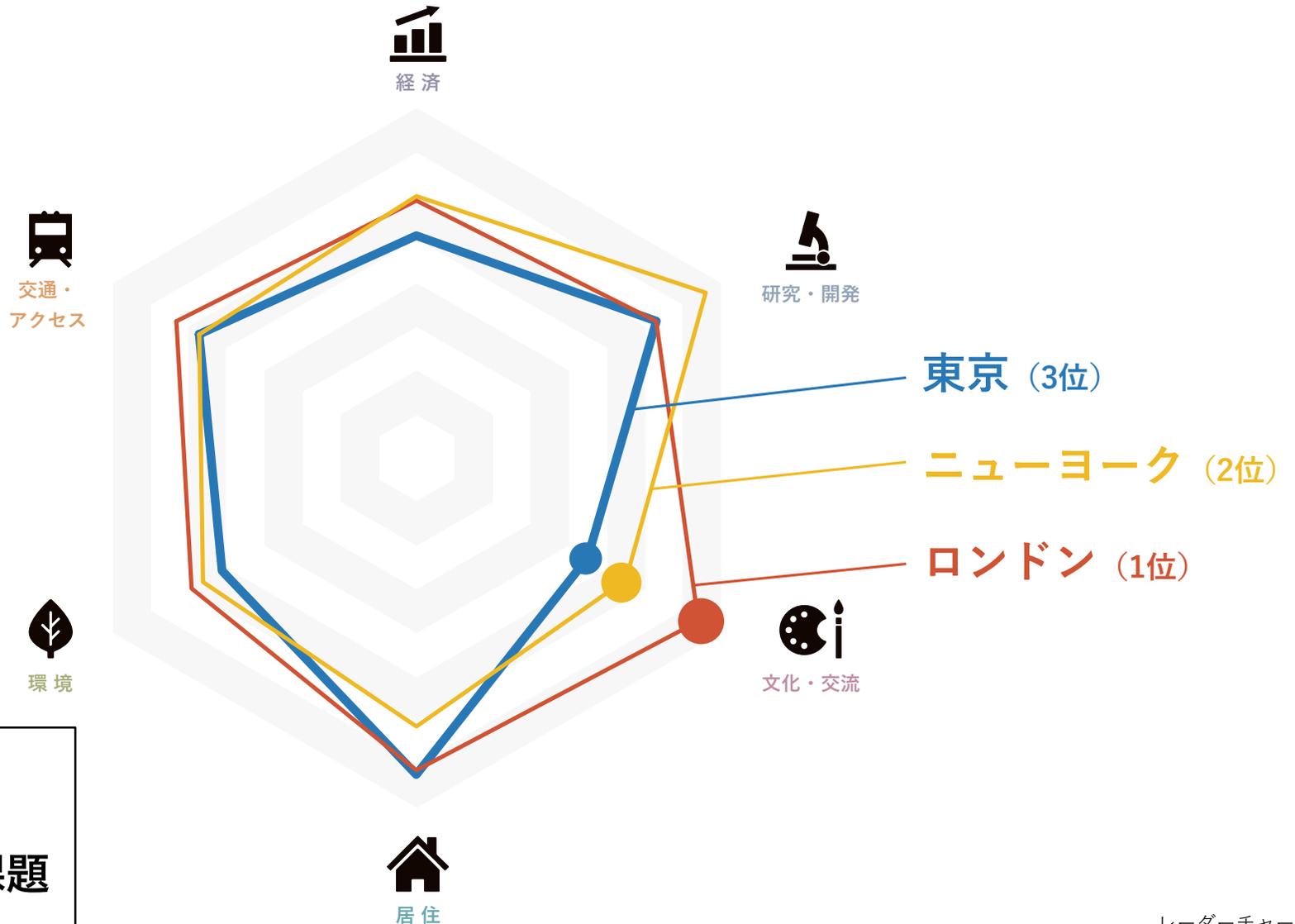
分野別に  
トップ2都市と  
東京を比較すると、

ロンドンは  
文化・交流分野に強み

ニューヨークは  
研究・開発分野に強み

東京は  
居住分野に強み

トップ2都市と比較すると  
東京は文化・交流分野が課題



レーダーチャート最外辺が80%

## 指標別 トップ2都市に対する 東京の強みと弱み

### 強み

-  経済 6 世界トップ500企業
-  経済 7 従業者数
-  研究・開発 19 特許登録件数
-  文化・交流 34 食事の魅力
-  居住 41 住宅賃料水準の低さ
-  交通・アクセス 66 公共交通の充実・正確さ
-  交通・アクセス 68 通勤・通学の利便性
-  交通・アクセス 69 渋滞の少なさ

### 弱み

-  経済 3 GDP成長率
-  経済 10 優秀な人材確保の容易性
-  研究・開発 21 スタートアップ環境
-  文化・交流 27 歴史・伝統への接触機会
-  文化・交流 35 外国人居住者数
-  居住 46 社会の自由度・平等さ
-  環境 52 環境への取り組み
-  交通・アクセス 61 国際線直行便就航都市数

## 経済

「企業数」や「従業者数」といった経済規模を強みとする一方、「GDP成長率」や「人材」が弱み。

## 研究・開発

「特許」は多いが、「スタートアップ環境」の整備に遅れ。

## 文化・交流

トップ2都市と比べて弱みである文化・交流分野では「食事の魅力」には定評があるが、街なかでの「歴史・伝統への接触機会」が少なく、「外国人居住者数」も少ない。

## 居住

「住宅賃料水準」はトップ2都市より低い。その一方、女性の社会進出などに遅れ。

## 環境

環境問題への国際的な協力体制は欧米都市が一步進んでいる。

## 交通・アクセス

都市内の交通利便性は高いが、海外からのアクセスは弱い。

## 指標別 アジア他都市に対する 東京の強みと弱み

### 強み



経済

1

GDP



経済

9

賃金水準の高さ



文化・交流

25

アーティストの創作環境



文化・交流

27

歴史・伝統への接触機会



文化・交流

29

美術館・博物館数



居住

39

総労働時間の短さ



環境

56

SPM濃度の低さ



交通・アクセス

66

公共交通の充実・正確さ

### 弱み



経済

3

GDP成長率



経済

12

法人税率の低さ



研究・開発

15

世界トップ大学



文化・交流

31

ハイクラスホテル客室数



環境

54

リサイクル率



環境

55

CO<sub>2</sub>排出量の少なさ

交通・アクセス

61

国際線直行便就航都市数



交通・アクセス

67

国際空港へのアクセス時間の短さ

※アジア他都市のなかでもGPCI総合順位の高いシンガポール、ソウル、香港の3都市と比較

# トップ2都市とアジア他都市に対する 東京の弱み

61 国際線直行便就航都市数

67 国際空港へのアクセス時間の短さ



交通・  
アクセス



環境

52 環境への取り組み

54 リサイクル率

55 CO<sub>2</sub>排出量の少なさ



経済

3 GDP成長率

10 優秀な人材確保の容易性

12 法人税率の低さ



研究・開発

15 世界トップ大学

21 スタートアップ環境



文化・交流

27 歴史・伝統への接触機会

31 ハイクラスホテル客室数

35 外国人居住者数

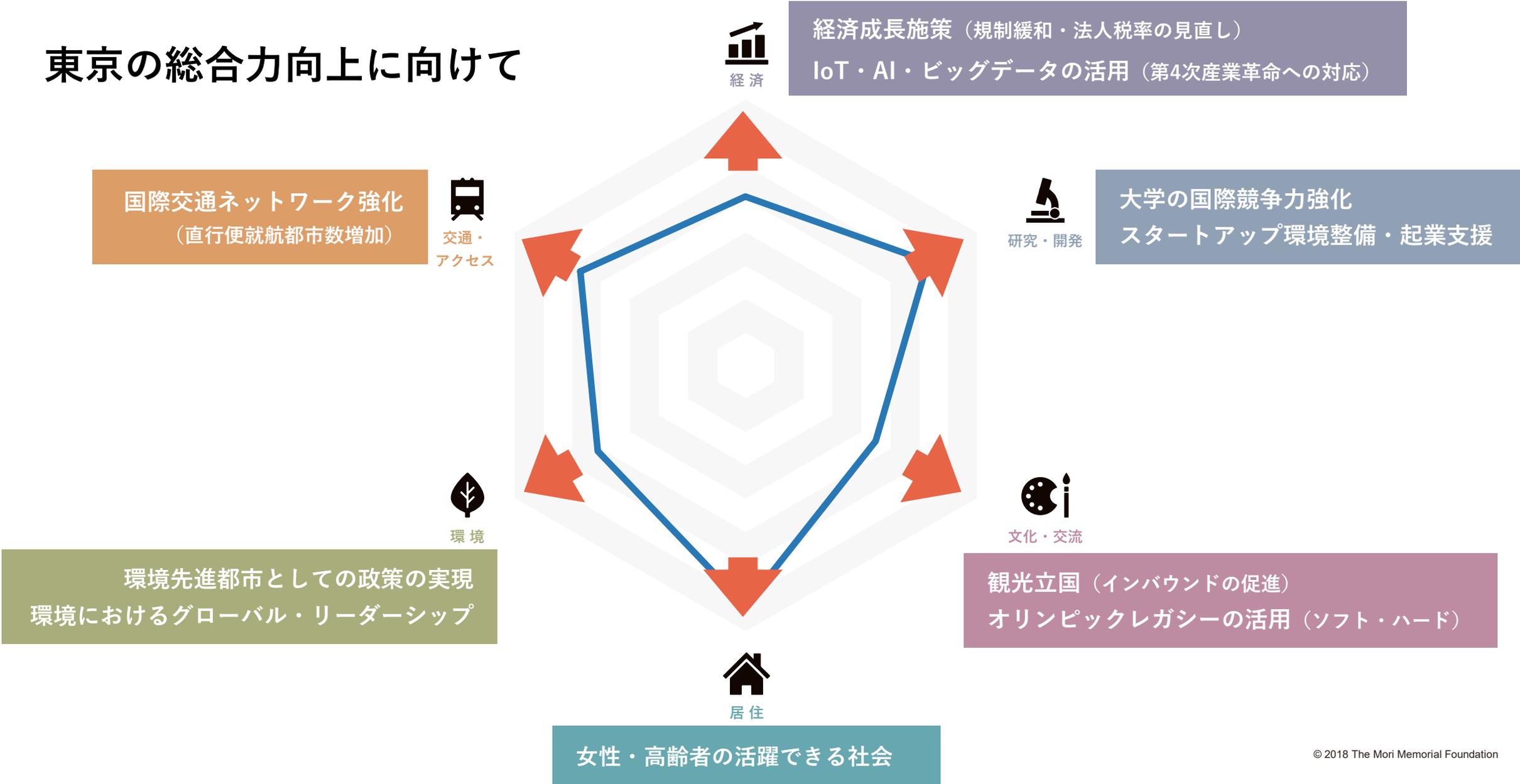


居住

46 社会の自由度・平等さ



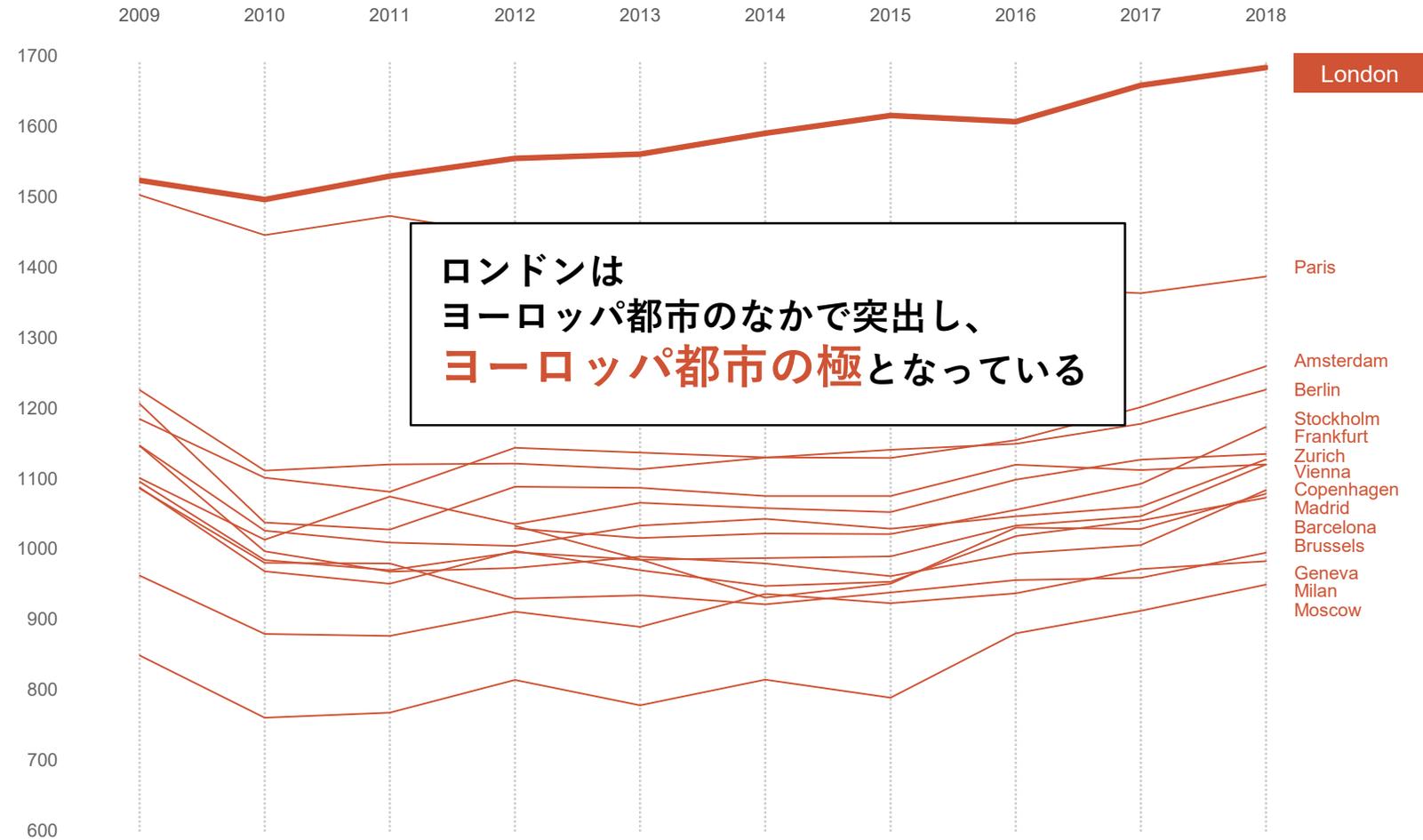
# 東京の総合力向上に向けて





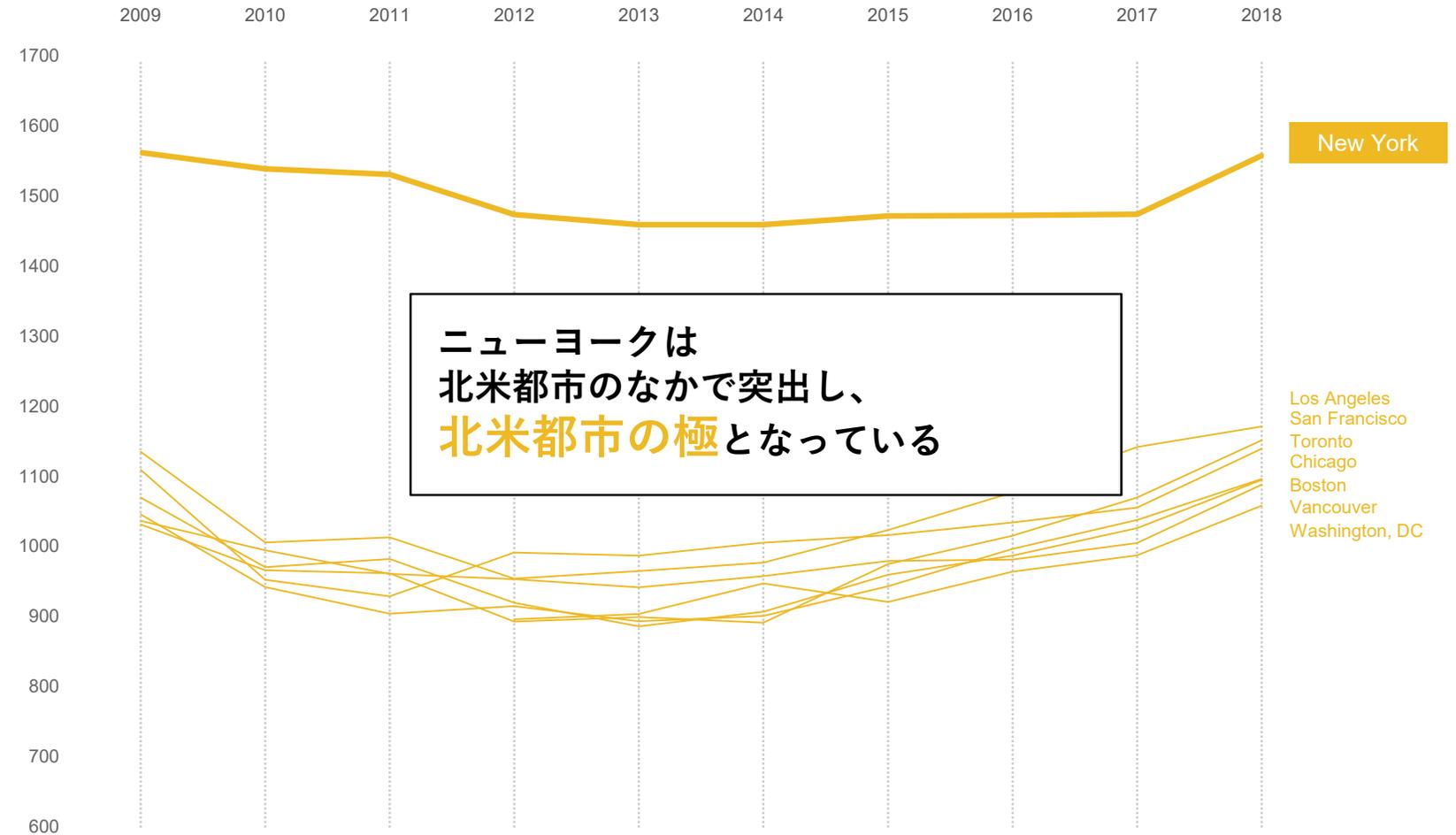
# ヨーロッパ都市

## 総合スコアの経年変化 (GPCI-2009~2018)



# 北米都市

## 総合スコアの経年変化 (GPCI-2009~2018)



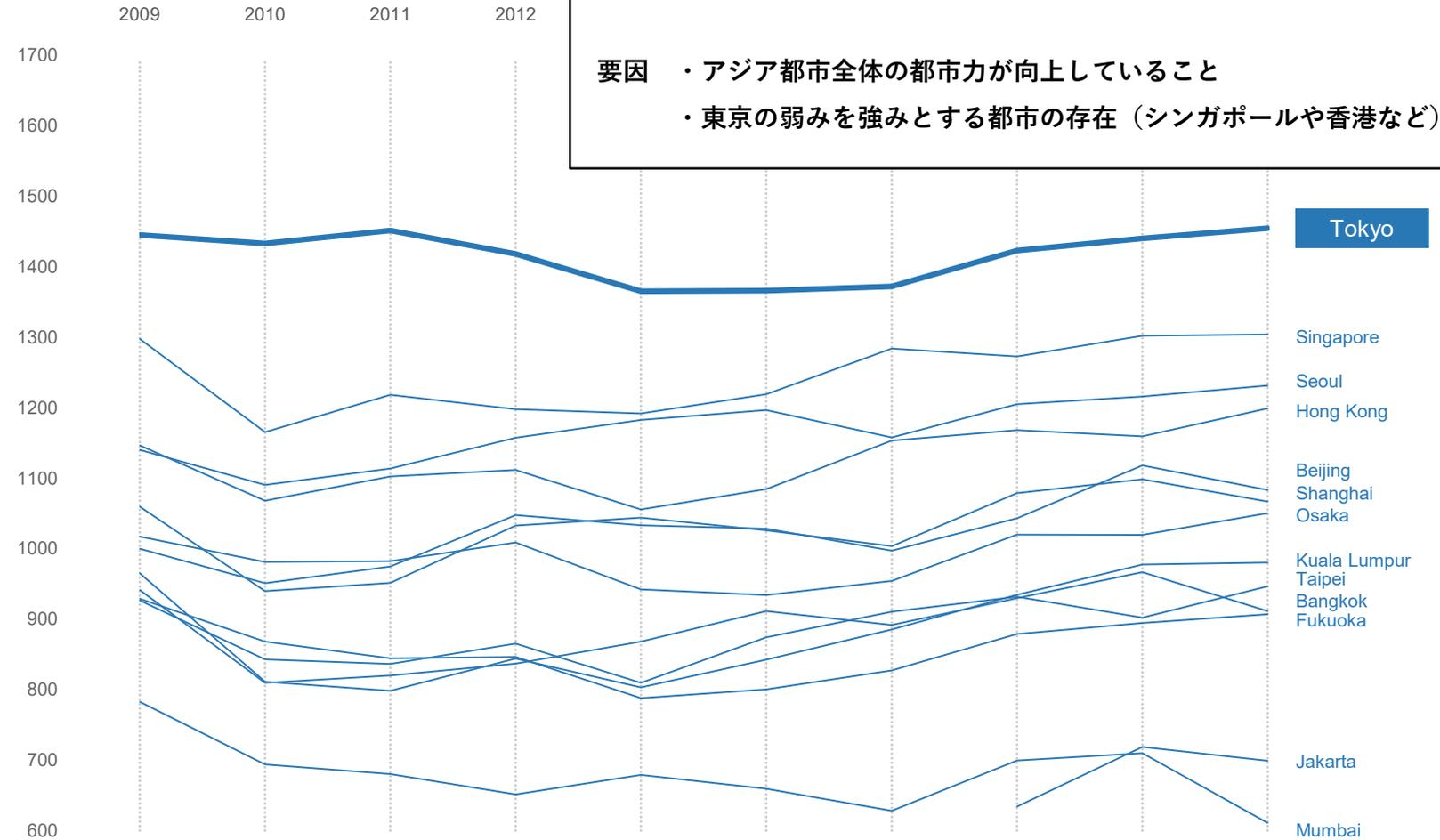
# アジア都市

## 総合スコアの経年変化 (GPCI-2009~2018)

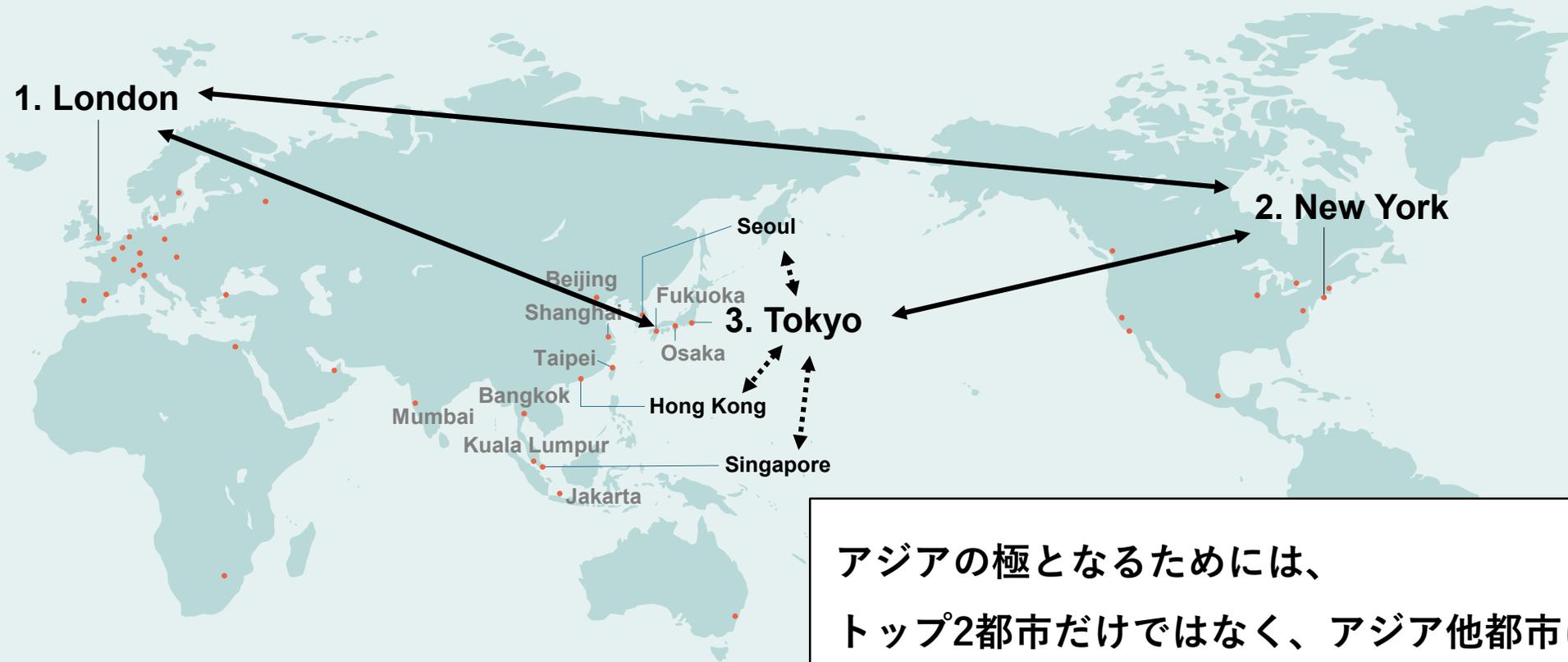


東京は  
アジア都市のなかでトップではあるが、  
極として突出するまでには至っていない。

- 要因
- ・アジア都市全体の都市力が向上していること
  - ・東京の弱みを強みとする都市の存在（シンガポールや香港など）



## Tokyo's Challenges and Possibilities 東京の課題と可能性



アジアの極となるためには、  
トップ2都市だけではなく、アジア他都市にも注目し、  
多角的に弱点を減らしていく必要がある

# 世界情勢とGPCI

世界情勢は日々変化し、  
グローバル都市に求められる要件も変わりつつある。

世界情勢や需要の変化が  
都市力にあたえる影響とは？

Global Conditions and the GPCI 世界情勢とGPCI



働き方改革



ワークプレイス



スタートアップ

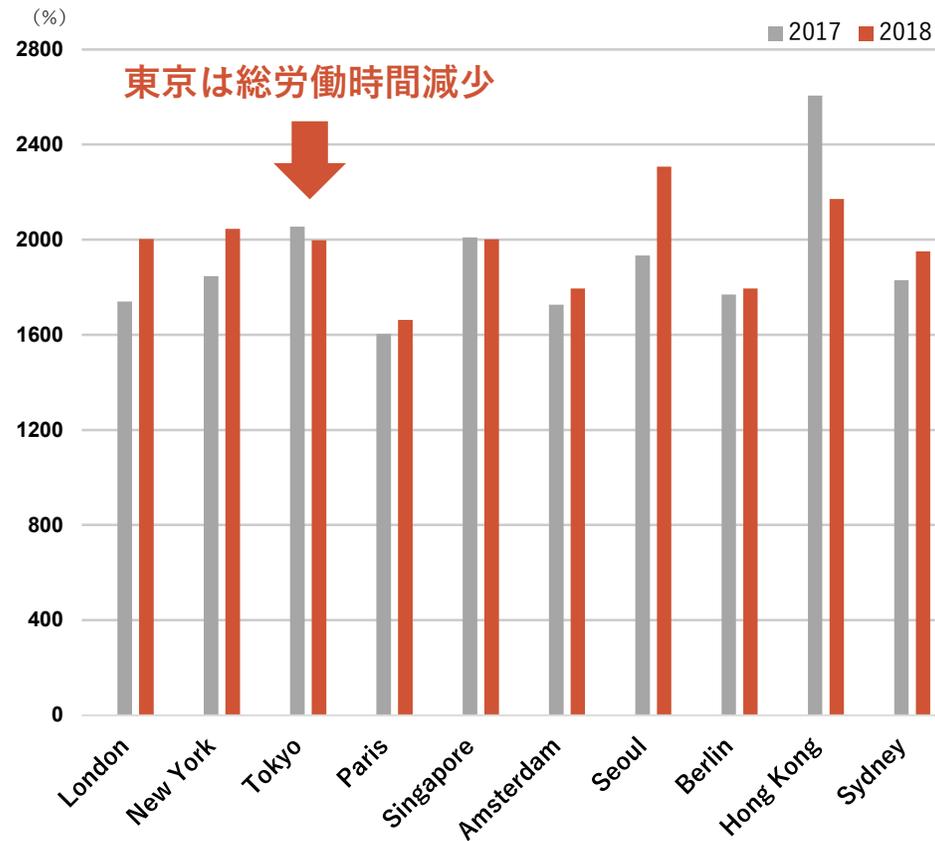


米国経済



ブレグジット

## 🏠 総労働時間の短さ



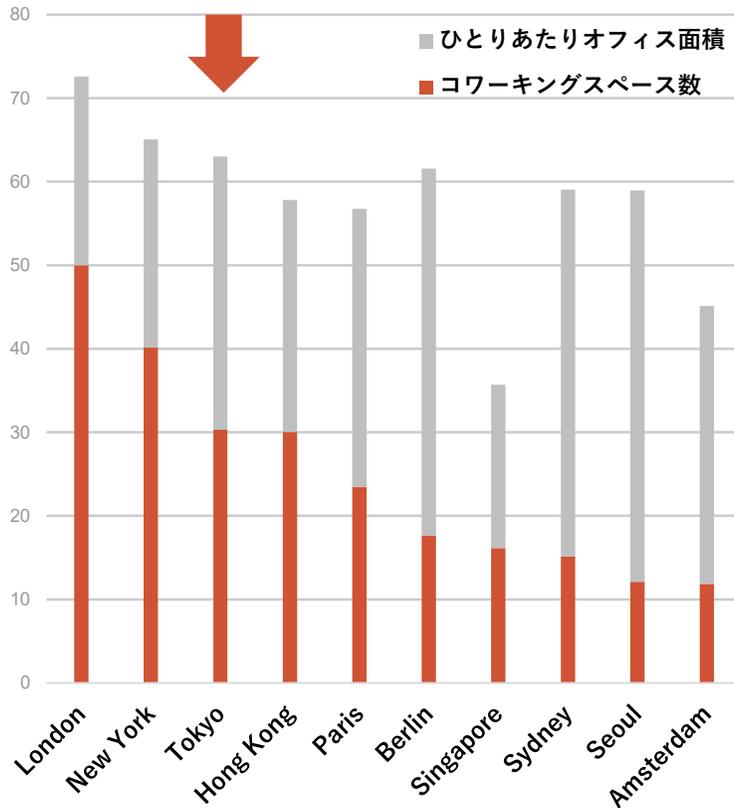
出典：UBS Prices & Earnings

ロンドン、ニューヨーク、ソウルなど多くの都市の労働時間が伸びるなか、東京は労働時間の削減により大幅に順位を上げた（34位→22位）

この総労働時間の削減は東京の居住分野トップ10入りに寄与している。

## ワークプレイス充実度

東京はコワーキングスペース数が比較的多い



出典：Coworker.com掲載コワーキングスペース数、WeWork支店数、  
CUSHMAN & WAKEFIELDによるデスク当たりのオフィス専有面積

\*コワーキングスペース：月額/日額で契約できる職務空間。協働の場に限らない。カフェは除く。

従来型の職場環境を評価する

■ひとりあたりオフィス面積に、  
働き方の新しい形態として

■コワーキングスペース数も評価に取り入れた。

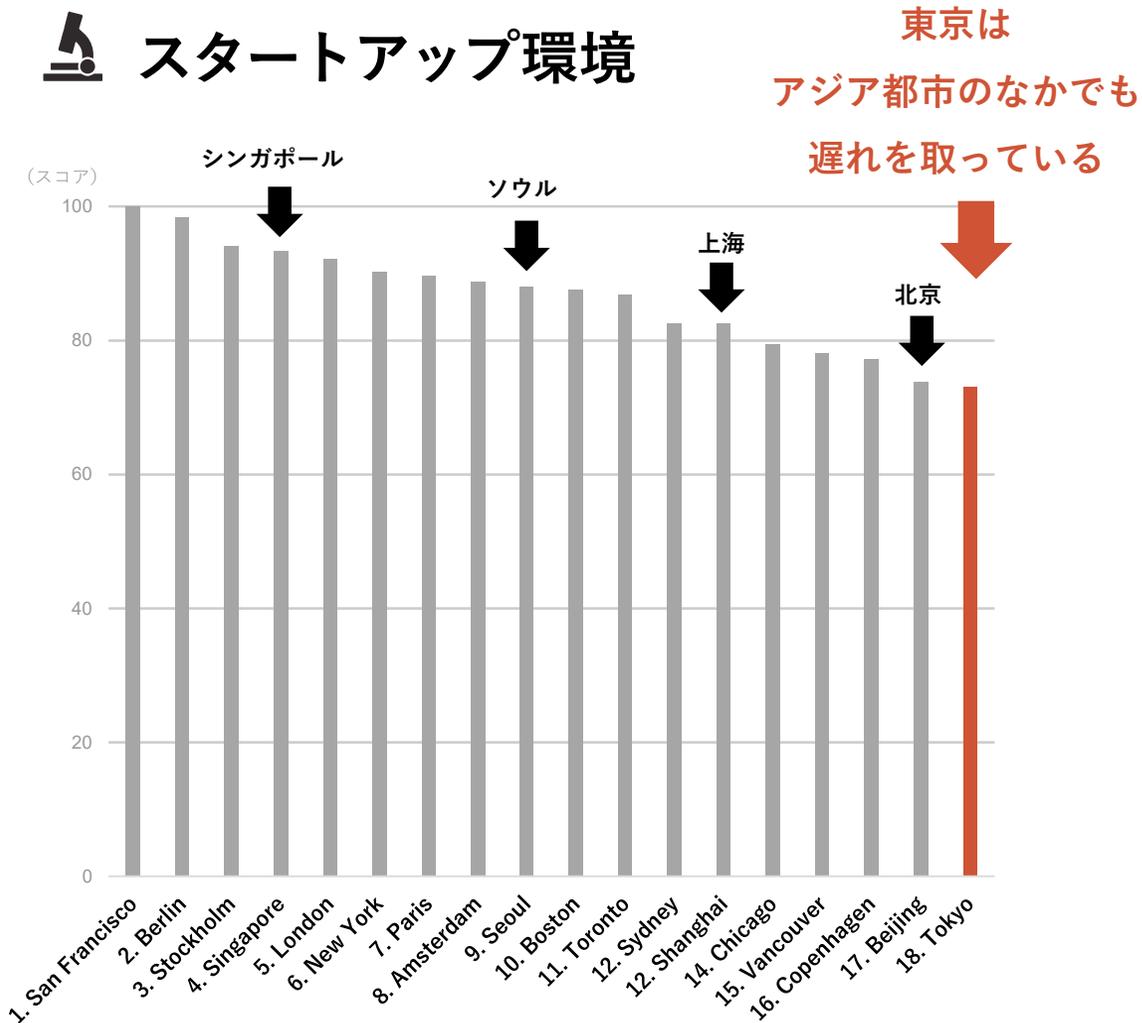
トップ10都市のなかでは、

ロンドン、ニューヨーク、東京、そして香港が  
コワーキングスペースを多く備えている。

事例：ロンドンではオリンピックを機に8割の企業が  
テレワークを導入した実績がある。

日本ではテレワークはまだ普及途中であるが、  
インフラとしては整い始めていることがわかる。

## 🔍 スタートアップ環境



スタートアップ環境では、  
サンフランシスコ、ニューヨーク、ボストン  
といった北米都市や、  
ベルリン、ストックホルム、ロンドンといっ  
たヨーロッパ都市の評価が高かった。

アジア都市では、  
シンガポールが4位と高評価となっている。

東京は18位と遅れを取ってしまっているが、

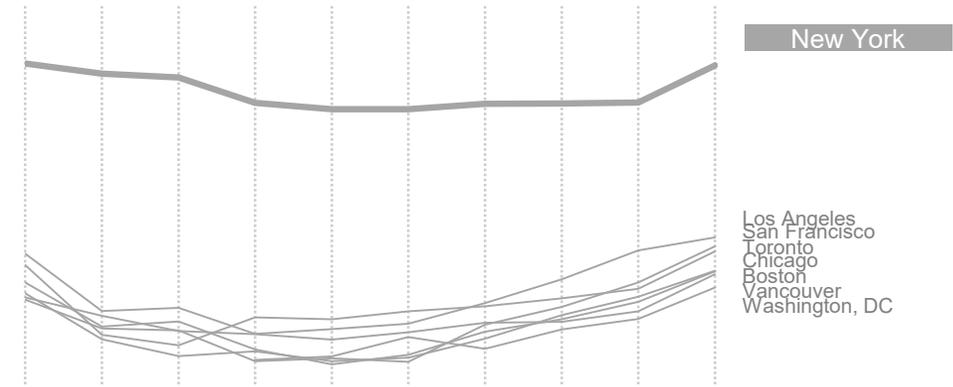
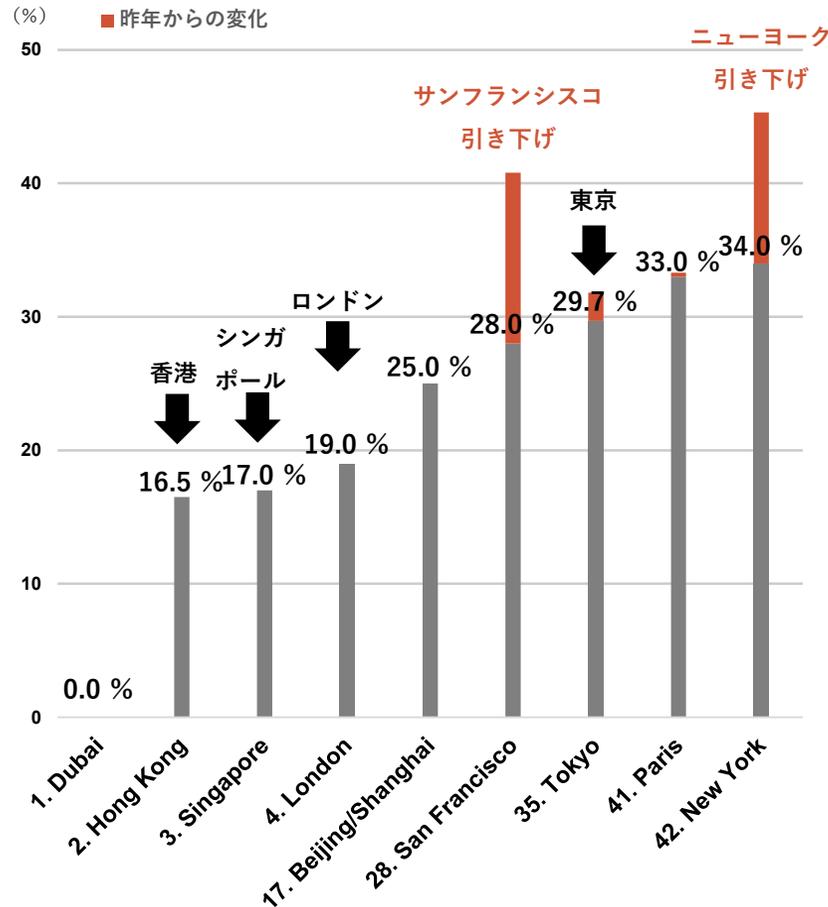
- ・インキュベーションオフィスに対する  
インセンティブの付与
- ・小池都知事がベンチャー企業育成のため  
年間1000社の支援策を講じると表明

など、今後の伸びが期待される。

出典：Nestpick "Startup Cities Index"

スタートアップ企業数や投資額、ベンチャーキャピタル数などを総合的に評価

## 法人税率の低さ



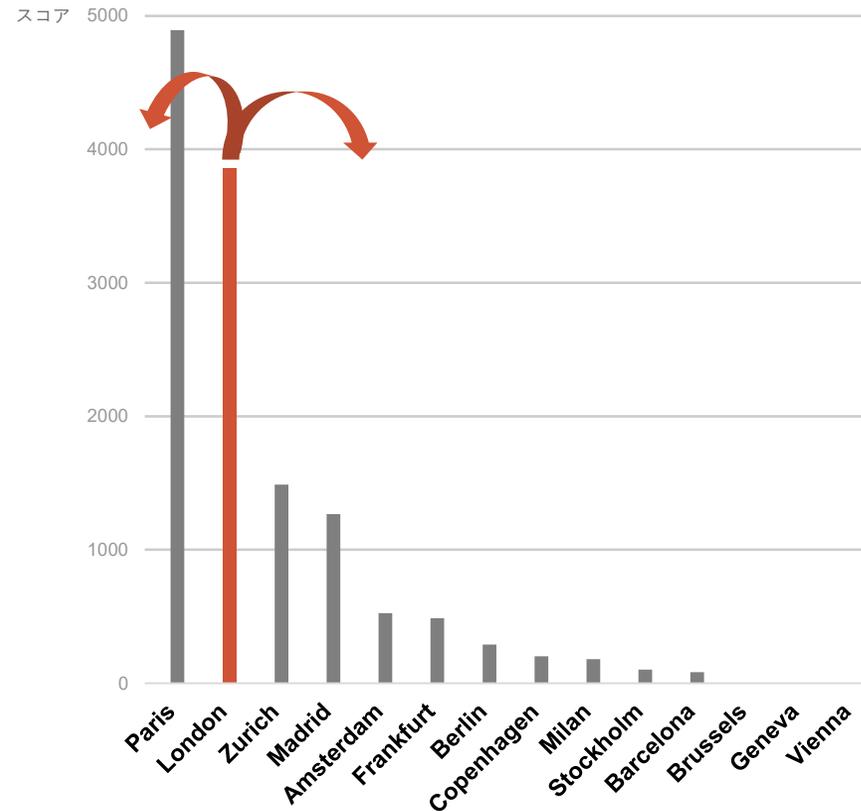
GPCIの結果を見ても、  
米国都市は世界金融危機以前の水準を  
取り戻しつつあることがわかる。

好調な米国経済に加えて、  
2018年1月からの法人税引き下げが  
米国都市のスコアアップにつながった。  
東京（29.7%）は35位とまだまだ法人税率が高い。  
トップ3都市ではロンドン（19%）が圧倒的に低く、  
アジア都市では香港（16.5%）や  
シンガポール（17.0%）が優位となっている。

出典：KPMG "Corporate tax rates table" より

## 世界トップ500企業

(ヨーロッパ都市のみ抽出)



出典："The Fortune 2017 Global 500"の順位に応じてスコア化

英国のEU離脱の期限が迫りつつある。\*2019年3月

ヨーロッパでは、世界のトップ企業の多くがパリもしくはロンドンに本社を置いている。

例 ロンドン：BP, Prudential, HSBC, Unilever

パリ：AXA, BNP Paribas, Peugeot, Dior

しかし、英国のEU離脱問題を受けて、多数の企業がロンドンからの拠点移転を検討しており、実際に海外移転を決定した企業もある。

例 Panasonic (アムステルダムへ ※法人税率25.0%)

HSBC (一部をパリへ ※法人税率33.0%)

Barclays (ダブリンへ ※法人税率12.5%)

このトレンドが今後ロンドンの経済分野に与える影響の大きさは未知数である。

働き方改革

ワークプレイス

スタートアップ

米国経済

ブレグジット